

国語コースについて（2023年度）

読解力の学習

読解問題の最初には必ず次のフレーズが書いてあります。

「次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。」

これは「答は文章の中に書いてありますからそれを探してください」という意味です。

読解の不得意な人は、自分で考えて答を作ろうとします。そうではなく、出題者は設問の中に答を見つけるための「キーワード」を用意してくれています。その「キーワード」を使うことで文章の中から答を「見つけ出す」ことができるようになります。このような読解力を身につけたい人向けの指導です。

（注意することは、読書によって読解力がつくわけではない、ということです。）

(1) 学習計画

10級から1級まで143回(A4プリント572枚)を学年に関係なくできるところから始めます。

1級を終了した人には、高校入試上級レベルの1段(10回, A4プリント112枚)の学習をします。

(2) 学習問題(教材)

問題は入試出題問題を中心に、物語文・小説、随筆文、説明・論説文、詩・短歌・俳句などすべてのジャンルを含む中学・高校入試対策向け”良問”です。

(3) 対象

小学1年から学習できます。言語は早期学習が効果的です。小学3年までは、漢字やことばの学習も含みます。上は、高校入試レベルの学習までできます。

数学の長文問題を解くための読解練習

近年、高校入試、大学入試とも数学の問題が「国語の読解問題ではないか」と見間違えるほど長くなっています。

長文の問題を読み、条件と設問の意味を瞬時に読み取らなければなりません。

読解力がないと、数学の力があっても、問題の意味が取れず、問題を解けないということが起こります。

「数学の長文問題を解くための読解力」は、説明文や論説文の学習だけで身につけることでできます。とくに、指示語を的確におさえ、全体の文の構成を読み取り、筆者は何が言いたいのかを瞬時に読み取る力が要求されます。

だから、国語のように難しい文章を学習するのではなく、平易な文章を速く的確に内容を把握できる教材を使って学習することが必要となります。

もっともいい教材は、国立・私立中学・高校の入試出題問題です。

このような事情から、数専ゼミでは、国立・私立中学・高校の入試問題(説明文、論説文、随筆)を教材として、「数学の長文問題を解くための読解力」を指導します。

国文法の学習

主語と述語のつながり，修飾語と被修飾語のつながり，文と文のつながり，文章と文章のつながりなどの日本語のしくみや規則についての知識が，文章の要約，作文，小論文など，文章を作る際のツールとなります。このようなツールを意識的に適用していくことによって，まとまりのある，説得力のある文章が書けるようになります。そうした力をつけたい人向けの日本語表現法のツール＝国文法の指導です。

(1) 学習計画

文法の基礎（文，文節，単語），活用のない自立語，活用のある自立語（用言），活用のある付属語（助動詞），活用のない付属語（助詞），敬語から学習できます。

(2) 学習問題(教材)

問題は，教科書レベルから高校入試レベルまで含みます。

学校の授業で学んでいる内容，あるいは入試対策として復習しておきたい内容等，学習内容はそのつど自由に選んで学習できます。

(3) 対象

対象は中学生です。

ただし，国語の得意な小学生なら，6年生くらいから学習できます。